

JKJO関連大会開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

大会開催について

大会開催にあたり開催される都道府県知事の方針に従い開催の可否については会場となる施設や施設管理者などと検討する

感染症対策について

主催者ならびに参加者は下記の事項を厳守する

参加者がガイドラインに違反をした場合は出場取り消し、途中退場を求めるなどの対応を行う

下記の各事項については今後の感染状況や国の方針を踏まえ随時追加、変更していく

以下の事項に該当する場合は自主的に参加を見合わせる事

- ①37.5度以上の発熱
- ②息苦しさ（呼吸困難）強い怠さ（倦怠感）高熱などの強い症状のいずれかの場合
- ③咳、頭痛、下痢、嘔吐症状、味覚障害などのある場合
- ④家族の方で新型コロナウイルスに感染された方がいる場合
- ⑤新型コロナウイルス濃厚接触者として自宅待機となった方が近くにいる場合
- ⑥家族の方で発熱を伴う体調不良の方がいる場合
- ⑦過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域などへ渡航または当該在中者との濃厚接触がある場合
- ⑧手洗い、手指消毒をこまめに実施する
- ⑨大会開催中はセコンド以外の応援は出来ません
- ⑩主催者は大会ガイドラインチェックリストを作成し各事項が厳守されているか会場内を定期的に巡回し確認する
- ⑪大会終了後2週間以内に新型コロナウイルスの感染者が確認された場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無などについて報告する
- ⑫感染の発生に備えて選手、保護者、審判員、スタッフ、代表者など来場者名簿を大会終了後1ヶ月間保存する
- ⑬必要に応じてPCR検査か抗原検査を行う（一般・シニア）

※大会出場者に感染者が出た場合、その道場責任者は保健所の指示に従い速やかに主催者に報告すること
その道場（教室）の大会参加選手全員（指導者、稽古参加者、関係者含む）に大会前日（当日）にPCR検査か抗原検査（検査費用は個人負担）を行い陰性者のみ検査結果と問診票を主催者に提出する事で出場を認める事とする
但し、濃厚接触者に該当する場合は出場不可とする
家庭の中で発熱者が出た場合、微熱であっても2日以上続くようならば専門機関で受診する事をおすすめします

オミクロン株による新型コロナウイルス感染症の療養解除（大会参加可）について

▽症状がある場合①

症状が出た日②から10日以上かつ症状軽快③後で72時間経過後
（または症状軽快後、24時間以上空けて2回PCR等の検査を行い陰性だった場合）
に療養解除となります

▽症状が無い場合

検体採取日から7日間、症状がない場合は療養解除となります

▽無症状者（濃厚接触者等）が途中症状が出た場合

当初無症状であった人であっても途中で症状が出てしまったら、発症から10日間は
感染性があるとされているため発症日が起算日になります

▲これら療養解除については保健所または専門機関の指導に従ってください 療養解除基準は変更される可能性があります

※①症状がある場合…人工呼吸器等による治療を行わなかった場合

※②症状が出た日…症状が出始めた日とし発症日が明らかでない場合には陽性が確定した検体の採取日とする

※③症状軽快…解熱剤を使用せずに解熱しており呼吸器症状が改善傾向である場合

※オミクロン株以外の患者の濃厚接触者の場合14日間の待機が必要になる場合があります

なお待機期間は変更される可能性があります

来場者問診票

問診票については施設側との確認の上、判断する

※問診票が必要とされた場合は下記の項目の通りとする

- ①氏名、住所、連絡先、電話番号
- ②大会当日の体温
- ③呼吸困難、倦怠感、高熱などの症状
- ④咳、頭痛、下痢、嘔吐症状、味覚障害などの症状
- ⑤家族の方で2週間以内に新型コロナウイルスに感染された方がいる場合
- ⑥2週間以内に濃厚接触者として自宅待機となった方が近くにいる場合
- ⑦家族の方で発熱を伴う体調不良の方がいる場合
- ⑧65才以上の場合
- ⑨過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域などへ渡航または当該在中者との濃厚接触がある場合

会場出入口について検温、手指消毒は引き続き行い37.5℃以上の方は入場不可

受付

- ①手指消毒剤を設置する
- ②原則的に道場代表者が受付を行う
- ③選手・関係者のマスク着用は個人の判断にお任せしますが着用を推奨します
- ④開場待ちの来場者は一定の距離を保ち整列する
- ⑤入場時に非接触型体温計で検温する ※上記の症状に当てはまる場合は入場不可とする
- ⑥選手の計量は出場コートごとに行う

入場者の制限

65歳以上の入場制限についてワクチンを複数回、接種することをおすすめします

諸事情によりワクチン接種できない方はPCR検査（検体採取日より72時間以内）及び抗原検査（検査日より48時間以内）を行う事をおすすめします。また持病等お持ちの方は医師、専門機関とご相談の上、ご判断願います。

尚、感染が認められた場合は自己責任として主催者および関係者に対して一切責任を問う事は出来ません。

会 場

※施設側との協議の上、大会規模の大きさに合わせて主催者側の判断に委ねる

* 出場者が100名程度（1コート～2コート）①～⑥

* 出場者が300名程度（3コート～4コート）①～⑥に加え観客席があることが望ましい

* 出場者が500名以上（5コート以上）①～⑥に加え大型施設のメインアリーナであること（貸し切りが望ましい）

①換気（窓の開閉）ができる

②冷暖房が使える

③更衣室がある

④会場内で昼食は不可とする

※関係者の飲食は指定された場所で行い、その際は周囲の人とできるだけ距離をとって対面を避け、会話を控える

⑤アルコール除菌液や手指消毒剤などを設置し、感染予防を徹底する

⑥各コートにも手指消毒剤を設置する

①②…窓の解放、換気設備の使用によって場内換気に努める外気の温度に注意して窓の解放による室内温度上昇には注意する

③更衣室では利用者がそれぞれ密になるのを避け退出の際には必ず手指消毒を行う

簡素化と分散

①事前にトーナメントを公表し、試合開始時間を通知する（分散集合を心掛ける）

②三密を避けるためアップをする場所は別会場が望ましい

③終了後は換気・除菌を行い感染予防を徹底する

④試合中に音を立てる行為は禁止

防 具

- ①選抜クラスで使用するJKJO指定サポーター・ヘッドガードは各自で用意する
- ②**ヘッドガードに装着するフェイスシールドは自由とし個人の判断にお任せします**。またマスク、マウスガードの着用も自由とします
※不安な方はフェイスシールド、マスク、マウスガードの着用をおすすめします
- ③選手の赤ひもは各自で用意する
- ④試合前後に各自サポーター消毒を行う
- ⑤試合終了後は速やかに退場し、手洗い・手指消毒を励行する

セコンド

- ①各大会時にセコンドに入る際には必ずライセンスカードが必要。忘れた場合はセコンドに入れない
- ②服装は正装（男性はネクタイ着用）帽子は禁止（やむ得ない事情がある場合のみ可）選手（ライセンス保持者）は道着可
- ③選手に続き挨拶をして入退場時は「正面に礼・主審に礼・お互いに礼」も選手と同様に行う
- ④**セコンドは1名**でセコンド席に着席したままアドバイスをを行う。ビデオ撮影は可、**マスク着用は個人の判断にお任せします**
- ⑤審判員がセコンドに入る場合は、審判員と分からないようリストバンドを外す。セコンドに入っていたことで自身の審判業務時間に遅れることのないよう、あくまでも審判業務を優先する
- ⑥試合中に手を叩く、足を踏み鳴らす、手で足を叩き鳴らす等の音を立てる行為は禁止
- ⑦暴言禁止、自選手へ強い口調での叱咤（圧力をかけるような発言）相手選手への暴言（「効いてる」等）審判員への暴言（反則時や判定に対する否定の発言）試合中の軽微な暴言に対して、1回目は主審より注意、2回目は退場となる。醜い暴言に対して即退場、その後のライセンス停止処分については、その大会審判長・審議委員長、JKC・JKJO理事が協議の上、後日決定する
- ⑧アリーナ内には選手やスタッフ以外の観客を入れない

審判員

①主審はマスクのみ着用とします

②審判交代をこまめに行う（5～10試合での交代が望ましい）交代時の挨拶は主催者側の判断に委ねる

その際にコート、審判椅子、旗などの消毒作業を行う

③各コート3審制も可とする

④試合後の選手の握手は主催者側の判断にお任せします

⑤試合時の延長戦はない方が好ましいが判断は主催者側に委ねる

⑥選手との接触は極力避け、選手のダウンなどの処置・確認は医務に委ねる

⑦主審のリストバンド、ホイッスルの共有は原則禁止

スタッフ

①体調が思わしくない場合スタッフに入らない

②マスクを着用する（人との接触が多いスタッフは手袋を装着する）

③防具・サポーターに触れた場合は手指消毒をすること

④大会終了後は着替えて会場を出る

観 戦

①団体代表者のみ本部席にて観戦可能とする

②顧問など議員・後援者のマスクの使用は個人の判断にお任せしますが着用を推奨します

医務・救護

①原則大会ドクターを依頼する

②柔道整復師などの場合は合わせて看護師・救命救急士などを依頼する

その他

- ①マスク・手袋・除菌液などを十分に準備するとともに感染者が出ないように平常時に増した安全対策をとること
- ②来場者とのトラブルを避けるため、事前に団体代表者への通知およびホームページへ掲載すること
- ③保護者は2階観覧席で密にならない様にマスク着用をお勧めします
- ④主催者側は常に2名以上で見回り指導を心掛ける
- ⑤施設側とは十分事前に打ち合わせを行う
- ⑥大会終了後、感染者が確認された場合は、感染経路や濃厚接触者などの詳細を明確にしておくこと